

## 日本剣道形審査上の着眼点 初段～三段

### ◎初 段

- 1、木刀を正しく取り扱うことができる。(堤刀、帯刀、抜き納め方)
- 2、五行の構が執れる。
- 3、音を立てず摺り足で実施できる。
- 4、九歩の立間合いが理解できている。
- 5、五本目までの打ち太刀、仕太刀の仕儀が理解できている。
- 6、概ね打突部位を捉えている。

### ◎二 段

- 1、五つの構を正確に執ることができる。
- 2、一足一刀の間合いが理解できている。
- 3、七本目での打ち太刀、仕太刀の仕儀が理解できている。
- 4、概ね正確に打突部位を捉えている。
- 5、概ね目付けができている。

### ◎三 段

- 1、打ち太刀、仕太刀それぞれの師、弟子の関係の理解ができている。  
(行動を起こすのは打ち太刀)
- 2、打ち太刀は「機をみて打突部位を打突する」を実践できている。
- 3、「横手あたり」で太刀を合わせる事ができている。
- 4、正確に打突部位を捉えている。
- 5、気を集中して実施できている
- 6、十分な残心の表現ができている。